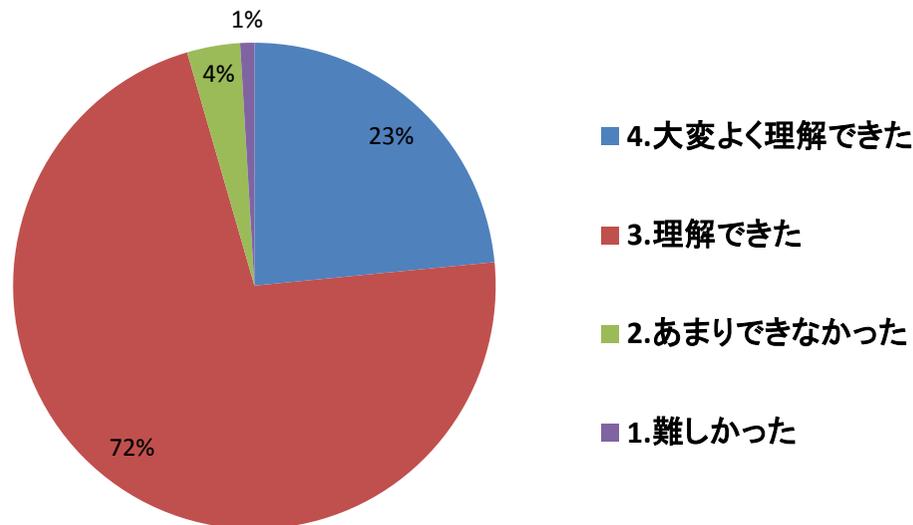


## ③ 気づき/要請levelと対応～要請側と対応側の教育～

北里大学病院 RST/RRT室  
集中ケア認定看護師  
森安 恵実



- 小さな異変にも気づくといった、繊細かつ鋭い触覚をナースがもっていることが重要で、その気づきがひとの命を救うことにつながり、また医療安全の観点からも重要であることを学びました。組織全体が動くことも大切なことを理解することができました。(男性 看護師)
- RRS導入にあたって、成功に導くポイントが系統的かつ具体的にスライド学習できたことが非常に良かったと思います。権威勾配などを考えなかなかコールに踏み切れない医療従事者のジレンマや呼ばれる側の心構え・Thank you for your calling が定着したときは、救命率以外の素晴らしい効果もたらされるような内容でした。(男性 放射線技師)
- 気づくための教育、工夫について考えていこうと思いました。RRSについて皆に伝授していこうと思います。(女性 看護師)
- 昨日患者の急変があった。なんとなくおかしいと最初感じたときに一度コールできれば落ち着いて対応できたのにと改めて思った。RRTの考え方が浸透するとコールもしやすくなる。(女性 助産師)
- 事例があり、わかりやすかったです。現場では、よくある事でRRSを呼ぶタイミング基準があれば安心と思った。(女性 看護師)
- RRT要請のタイミングと早く気づく事の重要性また、フィードバックの重要性が理解できた。また、講義中の「施設の文化を変化させる」という言葉に感銘を受けた。非常にまとまった大変わかりやすい講義であった。(男性 放射線技師)
- レベルごとの具体例が示されており、RRSの発動・養成のタイミングがわかりやすかったです。また、1症例ずつフィードバックすることの大切さを感じました。(男性 作業療法士)
- 要請側と対応側の教育を行うことは、RRSが成功するために不可欠であることがわかりました。(男性 薬剤師)